

海外感染症流行情報 2025 年 9 月

(1) 全世界: COVID-19 の流行状況

欧米諸国や日本では、COVID-19 の夏の流行が収束傾向にあります(米国 CDC 25-9-13、ヨーロッパ CDC 25-9-26、厚生労働省 25-9-26)。ウイルスの種類は、世界的に XFG 型が 7 割近くを占めていますが、日本では NB.1.8.1 型が多くなっています(WHO COVID-19 dashboard 25-9-23)。いずれの種類も重症度には変化が見られません。

(2) アジア: タイ、マレーシアでの狂犬病流行

タイ保健当局は 9 月中旬、バンコク市内のイヌに狂犬病感染が確認されたことから、警戒を呼び掛けている(ヨーロッパ CDC 25-9-19)。タイでは 24 年 1 月～25 年 3 月までに 8 人の狂犬病患者が報告されており、全員が死亡しています。また、マレーシアのサワラク州に位置するクチンでも、9 月に 2 人の狂犬病患者が報告されました(ProMED 25-9-23)。同州では 17 年から 87 人の患者が発生しています。

(3) アジア: デング熱の流行状況

東南アジアや南アジアの国々ではデング熱の流行期を迎えており、患者数は昨年と比べて同等かやや少ない状況です(WHO 西太平洋 25-9-18、WHO 南東アジア 25-9-24)。一方、南太平洋のフィジーやサモアなどでは、今年の患者数が例年よりも増加しています(米国 CDC Traveler's Health 25-9-16)。

(4) アジア: モンゴルでペスト患者が発生

モンゴル北部のフブスグル県で腺ペストの患者が 3 人発生し、うち 1 人が死亡しました(ProMED 25-9-10)。モンゴルでは毎年夏から秋にかけて、げっ歯類の肉を食べてペストに感染する患者が報告されています(外務省在モンゴル大使館 25-9-10)。お祝いの席でこの肉が提供されることもあるので、現地に滞在する際は注意が必要です。

(5) アジア: ネパール南部でコレラが流行

ネパール南部のビルガンジなどで、8 月中旬からコレラの流行が発生しています(WHO 南東アジア

25-9-24)。9 月中旬までに患者数は 1500 人以上にのぼっていますが、新しい患者の発生は減少傾向にあります。

(6) アフリカ:コンゴ民主共和国でエボラ熱が発生

コンゴ民主共和国の南部にあるカサイ州で、8 月下旬からエボラ熱の患者が発生しています。9 月下旬までに患者数は 58 人(疑い含む)で、このうち 37 人が死亡しました(ヨーロッパ CDC 25-9-26)。患者の年齢は 15 歳以下の小児が多くなっています。同国では 22 年にも北部でエボラ熱が流行しました。

(7) 日本:エムポックス I b 型の患者が発生

日本の神戸市で 20 歳代の女性がエムポックス I b 型に感染していることが確認されました(厚生労働省 25-9-16)。患者はアフリカへの渡航歴があり、帰国後に発疹などの症状がでています。日本では今までに 254 人のエムポックス患者が報告されていますが、全て II b 型の患者で、I b 型は今回が初めてです。I b 型はアフリカ中部で 24 年から拡大しており、II b 型よりも重症化しやすいとされています。主な感染経路は患者の皮膚病変や体液からの接触感染です。